

【重点目標】 (1)中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人のよさを引き出し、認め、伸ばすために指導の工夫・改善を図る。			
具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	・分析(成果と課題) 及び ○改善策
1-1 「特長」 中高一貫教育校の特長の1つである中高間での交流活動を通して、将来について考えたり、新たな目標や課題などを発見したりするなど、自身のキャリアを常に意識した生徒を育成する。	様々な高校生との交流活動は、自分の中学校生活やキャリア設計に役立っていると思う。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑬ 肯定的評価89% 【判定:B】(前期:A)	・肯定的評価は、89%であり、評価がB評価となった。A評価「よくあてはまる」と回答した生徒が、前期と比べ全体で-7%。3年生が-13%減少した。 ○肯定的評価としては、B評価に下がったが、-1%であるため、大きな変化はないと捉える。しかし、A評価が減少傾向にあるため、教育課程を見直しつつ、高校との交流活動がより充実するような手立て・工夫を行う必要がある。
1-2 「特長」 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを活かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	1年 4級38%:D 2年 3級45%:B 3年 準2級45%:A 【判定:B】	・今年度、これまでで、1年生4級が38%、2年生3級が45%、3年生準2級が46%の取得率である。 ○学年が上がるにつれ取得率も上がっている。英語は、本校の特色のひとつでもある。引き続き、生徒への働きかけを行いながら、自主性と創造性の育成に努めたい。
1-3 「質を高める」 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちのよい挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価84% 【判定:B】(前期:B)	・前期と大きな変化はなく、肯定的評価は80%を超えている。1年生では、肯定的評価が前期と比べ-11%と減少したが、2年生では+7%、3年生では+6%と増加している。 ○1年生には、改めて挨拶の大切さや意義などを伝える。2・3年生には、実践していることへの価値付けを行いながら、その行いが将来どのようにつながっていくのかなどを考えさせたい。
	提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート④ 肯定的評価85% 【判定:B】(前期:A)	・肯定的評価は、85%となり、B評価であった。また、A評価「よくあてはまる」と回答した生徒が、前期と比べ、-10%減少した。2年生においては、肯定的評価が-9%、A評価「よくあてはまる」と回答した生徒が-14%減少した。3年生においても、A評価「よくあてはまる」と回答した生徒が、-14%減少した。 ○フォーサイトの活用に関する指導を行うと同時に、時間や期限を守ることの意義に関する指導も適宜行っていく必要がある。
1-4 「よさを引き出す」 生徒一人一人のよさを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分にはよいところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑥ 肯定的評価84% 【判定:B】(前期B)	・肯定的評価は、84%であり、評価とともに前期と変化はなかった。しかし、1年生でA評価「よくあてはまる」と回答した生徒が-9%減少した。また、D評価「まったくあてはまらない」と回答した生徒が各学年で、約3%10人ずつ存在する。 ○引き続き、教育活動の様々な場面で、教師が生徒を見取り、よさを価値付ける指導を行いながら、C・D評価の生徒に対する声かけや手立て等、職員で共通理解を図りながら行っていく必要がある。
	生徒のよさを引き出し、認め、伸ばしていくような手立てや工夫など、積極的生徒指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 教育活動④ 肯定的評価100% 【判定:A】(前期A)	・肯定的評価が100%であったが、A評価「よくあてはまる」と回答した教員が58%と前期比べ-20%減少している。 ○引き続き、生徒一人一人の小さな変化を見逃さず、適切なタイミングで、その生徒が認めて欲しい内容について価値付けられるようにしたい。

【重点目標】 (2)学校研究の一層の充実を図り、令和の日本型学校教育を実践し、本校が今年度の目標とする生徒像、「自ら進んで学ぶ」「規範と人権」「レジリエンス」、を身に付けさせ、自己実現に向かって日々努力する生徒の育成を目指す。			
具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	・分析(成果と課題) 及び ○改善策
2-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業がよくわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート② 肯定的評価94% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、94%と前期に引き続き高い数値であった。また、A評価「よくあてはまる」と回答した生徒は、各学年40%を超えており、D評価「まったくわからない」と回答した生徒はいなかった。 ○引き続き、本校が目指す生徒像に近づけるよう学校研究を中心に研鑽を続けていきたい。
2-2 「令和の日本型学校教育」 令和の日本型学校教育の実施に関わる「錦丘授業スタイル」を実践する。	「錦丘個別最適な学び」を単元や1時間の授業の中で位置づけ、授業を展開することができる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート(教師) 肯定的評価95% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、95%であり、前期に引き続き高い数値であった。A評価「よくあてはまる」と回答した教員が+5%増加し70%を超えた。 ○個別に活動することが目的でなく、活動を通して、一人でも多くの生徒が「学びがあった」と感じられるよう、何のための取り組みなのかをしっかりと考え実践を継続させたい。
	授業の途中や最後に、それまでの学習を振り返る場面(錦丘リフレクション)が設定されている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート(生徒) 肯定的評価98% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、98%であり、前期に引き続き高い評価であった。ただし、1年生のA評価「よくあてはまる」と回答した生徒が-13%減少した。 ○単なる振り返りで終わることなく、振り返りにより、生徒が学びの定着を感じたり、学びが深まったと実感できたりするような指導となるよう工夫していきたい。
	授業中、ICTを効果的に活用することで、自他の考えを広げたり、深めたりすることができる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート(生徒) 肯定的評価95% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、95%であり、前期に引き続き高い評価であった。また、A評価「よくあてはまる」と回答した生徒は、どの学年でも60%程度いる。D評価「まったくあてはまらない」と回答した生徒は、1年生の3%でのみであった。 ○ICTを日常的に使用し、その効果を実感していることが分かる。今後も教材研究を重ね、効果的な活用について幅を広げていきたい。
「自ら進んで学ぶ」 授業で生徒が、意欲的な姿勢で取り組めるよう指導・工夫する。	自ら進んで課題について考えたり、意見を交流したりするなど、意欲的に学習に取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	授業・学習アンケート(生徒) 肯定的評価96% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、96%であり、前期に引き続き高い数値であった。A評価「よくあてはまる」と回答した生徒もどの学年でも60%を超えている。 ○本校生徒の特徴のひとつでもあるコミュニケーション能力をさらに伸ばし、そこから新たな発見や深まりにつながられるよう、引き続き教材研究等進めていきたい。
2-3 「規範と人権」 ルールやマナーの大切さを伝えるとともに実生活で実践していけるような生徒を育成する。	学校生活の様々な場面で「中学校生活のきまり」を守って生活することができる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑪ 肯定的評価97% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、97%であり、前期に引き続き高い数値であった。ただし、A評価「よくあてはまる」と回答した生徒が、全体で-10%、1年生で-19%、2年生で-10%減少した。 ○現在「きまり」の見直しが進んでいる。誰のための、何のためのきまりなのか、学校生活できまり・ルール・マナーを守る意義は何なのかを生徒自身でしっかりと考えさせ実践させていきたい。
2-4 「自己実現に向かって日常を過ごす生徒」(キャリア教育) 総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	難しい課題や困難なことがあったときに、諦めずに取り組んだり、別の方法を考えたりするなど、ねばり強く柔軟に対応することができる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑤ 肯定的評価89% 【判定:B】(前期:A)	・肯定的評価は、89%であり、評価がB評価となった。前期とくらべ-2%の減少であり、大きな変化とは言えないが、今後の変化には、要注意である。 ○個人が抱える課題は、多種多様である。生徒が困っていたり、助けを求めてきたときに、その生徒にあった手助けの仕方に対応できるよう生徒理解しておく必要がある。
	キャリアの行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑬ 肯定的評価89% 【判定:B】(前期:A)	・肯定的評価は、89%であり、評価がB評価となった。前期とくらべ-1%の減少であり、大きな変化とは言えない。 ○来年度からは、3年生と高校1年生が総合的な学習の授業で交流することが決まっていたり、2年生では、職場体験が再スタートする予定である。これらの交流が将来に向けた取り組みになるよう準備していきたい。
将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価73% 【判定:C】(前期:C)	・肯定的評価は、73%であり、評価とともに前期と変化はなかった。A評価「よくあてはまる」と回答した生徒は、1年生は35%、2年生は27%、3年生は31%であった。C・D評価は、各学年で20%程度いる。 ○肯定的評価を伸ばしていくことはもちろんだが、C・D評価をしている生徒にも目を向け、目標を立て取り組むことの大切さや夢や目標を見つける楽しさなども味わえるよう教育活動を工夫していきたい。	

【重点目標】 (3)生徒の自己実現の醸成の場となるよう、日頃から危機管理の意識を高め、安心・安全な学校づくりを目指す。			
具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	・分析(成果と課題) 及び ○改善策
3-1 「危機管理」 防犯、防災教育に関する研修等を通じて、事故・事件、災害等に対して、組織的に教職員が対応できるよう教職員の意識を高める。	問題行動や事故等が起きたとき、早期対応・組織的対応ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 教育活動⑥ 肯定的評価100% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、100%であり、前期に引き続き高い評価であった。 ○日頃からの報・連・相も、しっかりとなされており、引き続き早期対応・組織的対応に努めたい。
	合同避難訓練や研修等を通じて、防災意識が高まったと感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	教職員アンケート 学校経営④ 肯定的評価100% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、100%であり、前期に引き続き高い評価であった。 ○訓練や研修などの他、安全点検や環境整備においても、しっかり対応している。定期的な働きかけを継続して行っていきたい。
3-2 「安心・安全」 望ましい人間関係づくりと見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等とおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート 教育活動⑤ 肯定的評価100% 【判定:A】(前期:A)	・肯定的評価は、100%であり、前期に引き続き高い評価であった。 ○今後も、現在行われている定期的な迷惑調査や生徒会主催による人権集会などを通して、実態把握や望ましい人間関係づくりに取り組みとともに、相談部会を中心に、気になる生徒の情報を共有し組織的に対応できるよう努めていきたい。